

平成24年2月

安部良 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 池 口 正 英
同 村 脇 義 和

主論文

Sequential analysis of diethylnitrosamine-induced hepatocarcinogenesis in rats

(ジエチルニトロサミン誘導肝発癌ラットモデルでの経時的な病態解析)

(著者：安部良、岡野淳一、今本龍、藤瀬幸、村脇義和)

平成24年 Experimental and Therapeutic Medicine 3巻 371頁～378頁

審査結果の要旨

肝発癌高危険群に対する化学的予防薬の開発は今後の課題の一つであり、各種の動物モデルを用いて検討されている。簡便な肝発癌モデルとしてジエチルニトロサミン (DEN) によるモデルが広く用いられているが、詳細な経時的病態解析は十分に行われていない。本研究は、DENを用いたラット肝発癌モデルを作製し、DEN投与後の病理組織学的変化を経時的に検討したものである。その結果、DEN投与4週後より変性肝細胞が出現、6週後より再生肝細胞、オバール細胞、肝線維化を認め、12週後には過形成結節の多発を認めた。GST-P陽性細胞およびPCNA陽性細胞も6週後より出現し、経時的増加が示された。本研究の内容は、肝発癌高危険群に対する化学的予防薬の効果を *in vivo* で経時的に検討でき、肝発癌に至る様々な段階での発癌抑制効果を評価できる可能性を示したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。